

二〇一〇年度 (中学) 国 語

〈注意〉

始まりのチャイムが鳴るまでに、次の注意をよく読んでおきなさい。

- 一 始まりのチャイムが鳴るまで、問題や解答用紙に手をふれてはいけません。
問題一冊(十六ページ)と解答用紙一枚です。
- 二 試験の始めと終わりは、チャイムで合図します。
試験時間は、八時三十五分～九時二十五分の五十分間です。
- 三 始まりのチャイムが鳴ったら、解答用紙に受験番号、氏名を記入しなさい。
- 四 問題の内容について質問してはいけません。
- 五 困ったこと(筆記用具を落としたときなど)があつたら、だまって手をあげなさい。
- 六 持ち物をかしたり、かりたりしてはいけません。
- 七 答えはすべて、解答用紙に記入しなさい。
- 八 終わりのチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙をうらがえしにして、問題の上におきなさい。
- 九 解答用紙だけ回収します。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「ハアちゃん」こと城山隼雄は、昭和初期の小学校四年生である。疑問に思うことは何でも質問してしまう「ハアちゃん」は担任の広田先生を困らせることが多く、通信簿の「操行」(日頃の行い)の項目で、それまでは一番評価の高い「甲」であつたのが、一学期は一段階低い「乙」がついてしまう。しかし、お父さんは「小学校では少し元気がよいと乙がつくことがある」と問題にしなかった。

操行乙はお父さんのお蔭で I を逃れたが、ハアちゃんは何となく広田先生とは気が合わなくて、うまくゆかない。名誉挽回というわけで、ハアちゃんは得意の作文で頑張ろうと思う。小学二年生のときから、作文でほめられることが多く、学級の子どもたちの前で、自分の作文を朗読したこともある。

「作文は何も難しいことはありません。見たまま、聞いたまま、感じたままをそのまま書くとよい作文になります。上手に書くと思うと駄目になります」

と広田先生が言われた。このこともハアちゃんにとっては驚きだった。それまでは、ハアちゃんは作文を上手に書くと思ったし、こう書くと、先生がほめてくれるやろな、と思いながら書いたし、それはだいたい思ったとおりにうまくゆくことが多かった。

「今日は、この前、遠足で高城山へ行つたときのことを書きなさい。見たまま、感じたまま、そのまま書くのですよ」

先生の声に促されて書きはじめたが、いつものようにうまく書けない。ハアちゃんはだんだんと焦ってきた。高城山の坂道を汗をかきながら苦勞して登つてゆくところを書いていううちに、ふと心に浮かんだことがあつた。いつだったか、お父さんが戦地にいる従兄の博兄ちゃんからきた手紙のことを夕飯のときに話された。博兄ちゃんは輜重兵とかで、日本の軍隊の砲弾などを運ぶため、泥だらけの道を苦勞して、空腹をこらえながら頑張つたとか。内地では皆たらふく食べて呑気にしているけど、博兄ちゃんが大変な苦勞をしておられるのを忘れてはならない、というようなことだった。

ハアちゃんは、高城山の坂道で苦勞するが、戦地で頑張っている従兄の博兄ちゃんのことを思うと、こんなことは何でもないのだ、というようなことを書きかけたが、筆がとまってしまった。それは今勝手に考えたことで、そのときに「感じたまま」ではない。言うなれば、嘘のことだ。一瞬たじろいだ時間が迫ってくる。ハアちゃんは思い切つて博兄ちゃんのことを書いた作文を提出した。

皆に作文を返した後で、広田先生は上機嫌で言われた。

「城山君のが一番よかった。その一番いいところを先生がちよつと読んでみよう」

ハアちゃんは先生に認められて嬉しかった。操行乙もふつとんでしまふそうだ。ところが先生が読まれたところは、戦地にいる博兄ちゃんの苦勞を思い、必死になって坂道をあがつてゆくところだった。返してもらつた作文には、先生の読まれたあたりに、赤インクの丸が一杯ついていていた。

それを見て、ハアちゃんは何とも言えぬ複雑な気持ちになった。

こんなのマト、ミト兄ちゃんらに見せると、ニヤツと笑つて、「ハアちゃんやつたなあ」とか何とか言うのではないだろうか。ともかく、家族にはあんまり見せられへん、とハアちゃんは思った。

この日の夕御飯は、子どもたちが食卓についてみると、ビールの空瓶が二本並んでいた。お父さんは子どもたちが来る前に、お酒かビールを飲まれるのだが、だいたいはビール一本である。ときどき、二本飲まれるときは「メ

「トルがあがっている」ときで、そんなときは、お父さんの「演説」があることが多い。面白いときもあるが「説教」に近いときもある。(ア)

「ちよつとみんな聞くように」とお父さんが切り出された。どんな話かと思っていると、

「ここに隼雄の作文がある」

と、ハアちゃんの今日返してもらった作文をお父さんが持っておられる。(イ)

「隼雄は、高城山に遠足して坂を登る苦しいときに、戦地にいる従兄の博兄ちゃんのことを考えて頑張った。いいか読んでみるぞ」とお父さんはハアちゃんの作文の、先生が赤丸をつけたところを読みはじめられた。これには、ハアちゃんは「マイ」ってしまった。ともかく兵隊さんのことを言って頑張るといふと大人たちが喜ぶことも知っているし、広田先生がそれに乗せられたのはいいとして、

「お父さんまで」

と思うとハアちゃんはたまらなかつた。(ウ)

今日はお父さんのメートルがあがっているからだ、とハアちゃんは自分に言い聞かせ、それにしても兄弟たちはどう思っているか、と顔色をうかがったが、一同をしてお父さんの言葉を聞いている。

こんなとき、よくやるようにマト兄ちゃんが膝をついたりしてくれと、ハアちゃんもほつとするのだが、この日ばかりは、お父さんの勢いに押されたのか、何の信号もないのである。

ハアちゃんはそのうち心配になつてきた。(エ)

「ハアちゃんはお父さんのよいことを書きやがって」と兄さんたちが自分を馬鹿にしているのではないか、などと思えてきたのだ。要領よくやる奴は、だいたい誠意がないななどと、マト兄ちゃんが言つてたことも思い出した。そして、ますます自分が嫌になつてきた。「作文は得意だ」なんて、よくも言つたものだ。

この日は土曜日。お父さんは厳格なところがあつて、「小学生は教科書以外の本はあまり読む必要がない。家の

なかで本など読んでいるよりも、外で元気に遊ぶ子がいい子だ」というわけで、小学生は土曜日以外は、教科書以外の本を読むのは禁止されている。

それでも、お母さんは読書もいいことだと思つておられ、ハアちゃんの読書を応援したいと思つておられる。お母さんはハアちゃんの作文がほめられたのをよい機会だと思われたのか、

「隼雄の作文が上手なのは、IIからですよ」と言われ、日曜日にも読書をキョカしては、と陳情

をされた。お父さんはご機嫌だし、これはしめた、とハアちゃんが思っていると、お父さんが

「隼雄は、どんな本が好きか」

と尋ねられた。急なことで答えに迷つたが、広田先生が「こんな面白い本はない」と言つておられたことを思い出して答えた。

「アルセーヌ・ルパン」

「何！ ルパン。そんな探偵小説みたいなもん読む必要ない。読書は土曜だけでよい」とお父さんは大きい声を出され、ハアちゃんは、今日は変なことばかりや、と口惜し涙を流した。

日曜日の朝はよい天気だったが、ハアちゃんの心は曇りがちだ。日曜日の朝は子どもたちは全員で廊下の雑巾がけをすることになっている。

雑巾を絞り、ハアちゃんとミト兄ちゃんが横に並び、反対側からは、マト兄ちゃんといちちゃんが雑巾を押してやつてくる仕掛けになっている。さあ、これからは始めるというときに、ミト兄ちゃんがえらく真面目な顔になった。こんなときは、ミト兄ちゃんはびっくりするようないたずらをしたり、「冗談を飛ばしたりすることが多い。ハアちゃんはさつとミガマえた。ミト兄ちゃんが大声で叫んだ。

「戦地におられる博兄ちゃんのことを思い、頑張つて雑巾がけをしよう！」

「ギャツハ」

と四人はこれを聞くなり、ひっくり返って笑いこけた。あの作文が「つくりもの」であり、それに感心されたお父さんは、ちよつとどうかしておられたのだ。それにしても、あんなのを皆の前で読まれて、ハアちゃんかなんかったやろ。笑い飛ばしてしまえ。

これらすべての思いをこめてミト兄ちゃんは、ここであくジョークを飛ばしてくれたのだ。昨晚の兄たちの

が嘘のようだ。

「博兄ちゃんのことを思って、われわれも頑張ろう！」

兄弟四人は、口々に叫びながら雑巾を持って廊下を走り、走りながらゲラゲラと笑いまくっていた。

「あつ、みんなわかってくれてたんや」とハアちゃんはゲラゲラ笑いながらも、じーんとくるものを感じていた。

「兄弟ちゅうもんは、ええもんや」

叫んだり、笑ったりしながらハアちゃんは雑巾がけを続けたが、熱い涙はいくらでも流れ続けるのだった。

(河合隼雄『泣き虫ハアちゃん』による)

*輜重兵……昔の軍隊で、戦うために必要な物品の輸送・補給にあたる兵のこと。

問一 文中の「I」を逃れたが「I」を補うのに最もふさわしい漢字一字を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 傷 イ 恥 ウ 怒 エ 難 オ 悪

問二 ——線部①について。たとえば、高城山の作文では、このように思いながらどういうことを書いたのだろうか。簡潔にまとめなさい。

問三 ——線部②について。このハアちゃんの気持ちをわかりやすく説明しなさい。

問四 次の例文の——線部と同じ意味を持つものを、文中の——線部A～Dの「られ」の中から選び、記号で答えなさい。

大きな犬に追いかけられた。

問五 本文から次の文がぬけ落ちている。補うとすれば、文中の〈ア〉〈エ〉のうちのどこがふさわしいか。記号で答えなさい。

何とも情けない気持ちが先立って、ほめられて嬉しいなどまったく感じないのだ。

問六 文中の二カ所の に共通してあてはまる表現として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 不満げな表情
- イ 神妙な顔
- ウ 納得の表情
- エ おびえた顔

問七 — 線部③について。ハアちゃんはこのことばをどのような意味として受けとったのか。次の中から、最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア うまく事態を切りぬけようとする者は、礼儀を忘れがちである。
- イ うまく事態を切りぬけようとする者は、約束を破りがちである。
- ウ 人の評価を巧みに得ようとする者は、うそをつきがちである。
- エ 人の評価を巧みに得ようとする者は、人を傷つけがちである。

問八 文中の Ⅱ を補うのに適当なことばを自分で考えて10字前後で答えなさい。

問九 — 線部④について。なぜハアちゃんはこのような気分になっているのか。その理由としてふさわしいと思われるものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 兄ちゃんたちが、自分のことを軽蔑し、嫌っているのではないかと思われたから。
- イ せっかくの休みの日なのに、雑巾がけという大変つらい仕事が待ち受けているから。
- ウ お父さんが酒に酔ったためとはいえ、広田先生と同じような単純な反応をしたから。
- エ 自分はいつも他人の目ばかりを気にしている嫌な人間のように感じられていたから。
- オ 母の応援もあり、思う存分、読書ができると思ったが、その望みも絶たれたから。

問十 — 線部⑤について。ここでは兄弟のどういうところをいいものだと感じているのか。わかりやすく説明しなさい。

問十一 — 線部 a c のカタカナを漢字に直しなさい。

二次の文章は、筆者が二〇〇三年十二月初旬に、イタリアのボローニヤという都市を旅したときの紀行文です。文章全体を読んで、後の問に答えなさい。

この日は朝からうららかな **I** 春日和で、教会前庭の陽だまりでミケランジェロとモーツァルトに触った手を撫でてうつとり日向ぼっこをしていると、十七、八くらいの娘さんが目の前に、タブロイド判の新聞を静かにさしだしてきました。顔も着衣も全体になんともなく煤けています。

「ひよつとしたら、ボローニヤ名物、教会の前や繁華通りに付きものの『大きな広場』紙の売り子の一人ではないだろうか」

ぴんときて、全十二ページ、定価一ユーロの新聞を二ユーロで買いました。どうしてこの十二ページのタブロイド新聞がボローニヤ名物なのか、やはり説明が要ると思います。

いまから二十年近く前、ボローニヤの街のそここにホームレスの姿が目につくようになったが、それに鋭く反応したのがボローニヤ大学の三人の学生だったそうで、「ホームレスの出現によって街の風景が変わりはじめた。この事実を早く市民たちに伝えたい。それには新聞を出すのが効果的だ」と考え、企画書を書いて市役所に提出しました。こういうことにすぐ予算を付けるのがこの街のいいところで、さっそく新聞がハツコウされることになりました。

普通の市民がどうして仕事と住まいを失ってホームレスになってしまったか。明日にも我が身に起こりかねないセツジツな主題を、細密なインタビューや鋭い社会分析で問い詰める編集方針でたちまち評判になります。この新聞の真価はじつは最終ページにありました。バックナンバーを出来得るかぎり手に入れて伊和辞典と首つ引きで読んでみると、たしかに「最新お助けニュース」と名付けられた最終ページはおもしろいのです。

仕事と住まいを失ったとき、まずどこへ相談に行くべきか、どこへ行けばシャワーが浴びられるか、洗濯はどこですればいいか、無料宿泊所はどこか、衣類はどこで入手できるか、体調をこわしたらどこへ駆けこめばいいか、法律相談はどこですればいいか……そういった情報がぎっしりと詰まっている。そんな情報誌ならどこにでもあるさとおっしゃる方もおいででしょうが、しかし、その内容と文体が傑作で、たとえば、「食事」という欄を見ると、〈インディペンデントツア通り的高级料理店ディアナでは、水曜と木曜はパンやハムがあるから、閉店マチカの午後十時すぎに裏口へ行くのがいい。ただし、給仕のジュリアーノはケチな上に無愛想なので、彼を避けるのが賢明である。ジュリアーノは大男で、若いのに禿げているからすぐわかる。〉

名前を出されたジュリアーノ君には気の毒ですが、こういう書き方なら、みんな喜んで読みますね。ジュリアーノ君にしても無愛想はそのままでも、ケチなところが少しは改まるかもしれません。情報にも、細部と文体は大切なんですね。

無料宿泊所の欄にはいつも、〈マレッツラ神父協会。ラヴァロ通り十三番地。午後九時から翌日正午まで。セイゲツなシートと朝飯付き〉という案内が載っています。ここでちょっとマレッツラ神父の話をしましょう。

マレッツラ神父はこのサンタ・マリア・デッラ・ヴィータ聖堂付きの司祭でしたが、彼が四十代の初めに事件が起きました。そのころのボローニヤはドイツ軍に占領されていて、ある日のこと、市民のバルチザンがドイツ兵を一人、射ってしまった。ドイツ軍は自軍の兵士が一人、殺されるとその仕返しに、無作為に選んだ市民を十人、射殺することに決めていました。朝の広場の銃殺隊の前に、たちまち市民が十人、引き立てられてきた。その中に、お腹を空かせて泣く赤ん坊を抱いた若い母親がいて、「死ぬ前にこの子に一度だけお乳をあげたい」と、ドイツ兵に取りすがった。かまわずにドイツ兵が赤ん坊を取り上げようとしたとき、「わたしが身代わりになります。あなたはゆつくり赤ちゃんにお乳を上げてください」と進み出た男がいた。これがマレッツラ神父でした。

まさか神父さまを射殺するわけにはいかない。そこでこのときにかぎり処刑は中止になったとボローニヤ市史が

記録しています。市民がドイツ軍を追い出してからは、雨の日も風の日も、神父は街の中心部にある大きな食料品店の壁の前に坐り、通りかかる市民に黒い帽子を差し出して喜捨を乞い、そのお金で孤児院や母子寮をたくさん建てました。もちろん無料宿泊所も。食料品店の煉瓦の壁は、長い間、神父の背中でごすられて、すっかり凹んでしまっていました。その凹みを撫でながら案内役のニーノ教授の説明をうかがうと、神父が亡くなってからも、代わりの神父さんや修道女たちが同じ煉瓦壁の前に坐って、たくさんの方の施設の運営資金を集めているそうです。そんなわけで無料宿泊所の費用もこの煉瓦壁の前で集められた献金で賄われているのです。

自分のせいでもないのに仕事や住まいを失ってしまうことがあります。ボローニヤでは、こんなとき、「自己責任」なんて冷たいコトバは使わない。困っている人がいたら、とりあえず手を差し出してあげる。ボローニヤの街づくりのやり方を「ボローニヤ方式」といい、世界のあちこちの都市が手本にしていますが、じつはこの方式の基本にあるのは、このマレッツァ神父の精神なのでした。

ところで、初めはホームレスの友の会ハッコウの新聞として始まった「大きな広場」紙は、そのうちに社会的協同組合に発展していきます。一九九八年、友の会の十五人の有志が、「大きな広場の道」という組合を設立しました。新聞を買った次の日、その組合本部を訪ねてびっくりしました。サッカー場が一面、そっくり入りそうなほど広い空地の向こうに、煉瓦建ての倉庫が三つ、棟つづきで並んでいます。内部はバスケットのコートなら優に二十面は取れそうなほど広い。

案内してくれたのは、ホームレスの劇団を率いる演出家にして劇作家と俳優をも兼ねるマッシモ・マキャベリさんで、年の頃は三十代の半ば、がっしりした体つきで、彫りの深い顔の好漢です。職歴を訊いたけれど、「ボローニヤ大学で演劇を教えたことがある」と答えただけで、ほかのことは一切、教えてくれませんでした。

「それにしても、広い建物ですね。マッシモさん、ここはもと何の工場だったんですか」

「工場じゃない。バスの倉庫だったんだ。使わなくなった公営バスの車庫を、市役所が貸してくれているんだよ」

「それで、II？」

「ただに決まっているじゃないか」

使わなくなった公共の建物や土地を無償でボランティアグループや社会協同組合に提供するというのも、これまた「ボローニヤ方式」です。

奥が仕切ってあって、そこには劇場がありました。椅子を並べると二百人ぐらゐは楽に入りそうです。俳優たちが仮面を顔に稽古の真つ最中。台本のようなものは、紙切れ一枚、題名は『キャピタン・フラカッサの空威張り』。

「そう。シェークスピアもモリエールも、偉大な劇作家はみんな、このコンメディア・デッラルテを観て芝居を勉強したんだよ。いうならばコンメディア・デッラルテは世界演劇の基本のようなものだ。筋書きが一千本ほど残っているが、そいつを全部読んで、その中で気に入ったものを、現代風につくりなおして舞台にかけているところだ。今週も近くの町から招かれているので、必死で稽古をしている。」

「どうしてホームレスの皆さんが芝居なんてものをするんですか」

「仕事がなくなる、住むところもなくなる。すると人間はどうなるだろうか」

「……どうなりますか」

「自分の殻の中に閉じこもるようになる。自分と外部との間に厚いシャッターを下ろす。ところで芝居というものは、みんながIIIことをしないと、できあがらない」

「つまり、芝居の熱が殻やシャッターを溶かす？」

「その通り。みんなでわいわいやっているうちに、心がやわらかくなり、自分と外部との境がなくなる。そして、そこへ観客の笑い声や拍手が加われば、自分と外部とが完全に溶け合って、だれもがもう一度、外部を信じようという気になるんだよ。芝居にはふしぎな力があるんだ」

そういうとマッシモさんは、ホラ吹きで、臆病なくせに女という女はみんな自分に惚れると信じ込んでいる力

ピタンの役を演じるために舞台へ上がっていました。

◆ その日一日、組合本部を見学しましたが、そのあらましは次のようです。

こわれた家具、錆びた自転車、いらなくなったテレビ受像器、古くなった衣類など、ボローニヤ中の廃品がすべてここに集まってくる。それを修理してふたたび使えるようにして、売りに出すのがホームレスの人たちの仕事で、たとえばわたしは、古ジパンの使えるところを切り取って、それを巧妙に縫い合わせたトートバッグを二〇ユーロで買ってきました。洒落ている上に使いやすくてとても重宝しています。それから、商品の配達や公共緑地の掃除、そして市内の浴場や例の無料宿泊所の管理などもホームレスの人たちが引き受けています。市内のオフィスやアパートの清掃もこの組合の請け負い。なによりも大切なのは、夜間の見回りで、夜、道ばたで眠っている人たちに会いに行き、情報を提供したり援助の手を差し伸べたりする。つまり市は、不要になったバス車庫を提供することで、ボローニヤ中の廃品を再生させ、市街のいたるところをきれいにし、ホームレスの人たちを立ち直らせていることになります。助けることで助けられる。この仕組みにすっかり感心してしまいました。

ときに例の新聞ですが、ホームレスの人たちは、初回は十部、組合から無料でもらうことができます。定価は一元ユーロですが、いくらで売ってもよい。二回目からは一部〇・五ユーロで引き受けて、それを一元ユーロ以上で売り捌く。こうしてホームレスの人たちはこの組合本部を拠点にして心と体を養い直して、ふたたび社会へ出て行くのです。中には、こういった仕事をしながらボローニヤ大学で電子工学を学び、一流会社に再就職した人が何人もいます。そうで、もちろんこれもボローニヤ方式です。

(井上ひさし「大きな広場」による)

*パルチザン……一般民衆によって独自に組織された非正規軍。第二次世界大戦中、ナチスドイツに対する抵抗運動を行っていた。

*喜捨……すすんで貧しい人に金品を寄付すること。

問一 本文中の『線部 a d のカタカナを漢字に直しなさい。』

問二 **I** を補うのにふさわしい漢字一字を書きなさい。

問三 — 線部①について。このように学生たちが考えたのはなぜだろうか。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア ほかの新聞が興味本位にとりあげる前に記事にしなくては、自分たちが新聞をつくる意味がなくなってしまうから。

イ 解決が遅ければ、ホームレスの人たちだけでなく、ボローニヤに住む人々の生活の不安を大きくすることになるから。

ウ このまま放置しておくと、とりかえしのつかないところまで街の風景が変わり、観光都市として成り立たなくなるから。

エ 自分たちが大学を卒業したとしても、就職できずホームレスになってしまうかもしれないという現実直面していたから。

問四 — 線部②「この新聞の真価」とは、どのようなところにあるのか。わかりやすく説明しなさい。

問五 — 線部③について。「その凹みを撫で」ていたときの筆者の思いはどのようなものだっただろうか。次の中から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア ただ一人、体を酷使してまで人々に尽くしてきた神父にあわれみを感じていた。
- イ これからも神父の遺志を継ぐ人があるのだろうか？と少し心配になっていた。
- ウ 坐り続けていた神父の姿を思い浮かべ、そのひたむきな努力や深い志に感じ入っていた。
- エ この凹みから美しい空想の物語をつくりあげ伝えてきた市民の気持ちに胸をうたれていた。

問六 — 線部④について。これほど広い場所が必要なのはなぜか。その理由となっている一文を文中の◆印（13ページ）より後の部分からさがし、その最初の五字をぬき出して答えなさい。

問七 Ⅱ を補うのにふさわしいことば（セリフ）を考えて書きなさい。

問八 Ⅲ を補うのにふさわしいことばを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自己責任で行う
- イ 個性をもつ
- ウ 力を合わせる
- エ 自分を抑える

問九 — 線部⑤について。ここでの「養い直」すとは、どのようなことを言っているのか。具体的に説明しなさい。

問十 — 線部⑥について。「ボローニヤ方式」の基本を言い表したことばを、文中の◆印より後の部分から10字前後でぬき出して答えなさい。

問十一 — 線部について。本文全体を読むと、筆者がこのように判断したのは、どのようなことからだと考えられるか。『大きな広場』がどんな特色をもつ新聞であるかという点にふれながら、説明しなさい。

〈問題は以上で終わりです。〉

中學 國語 解答用紙

受験番号

氏 名

問

問二

[illegible]

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

a	つて
b	
c	えた

a
b
c
d

問二

問三

--	--	--

問五

問六

問七

問八

問九

[illegible]

問十一	